

内郷村報の 六大使命

- 一、政黨政派を超越して、村力充實主義を標榜す。
- 二、村内公私各機關の活動状況を報導し併せて其協調を計り、總親和總努力の實現を期す。
- 三、本村社會事業の徹底を期す。

心に鼓舞して居る紳士の如き、飼育は簡單であり馬一頭の分で四頭位は、飼養出来る云ふ事であるから、是非御勤めしたいと思ふ。隣村磐崎村の藤原では、早くよ

早く賣出し、非常に高値に取引される所である。以上視察に参つて、御世話になつた方々に對し、遙か紙上を通じた、感謝の意を捧げ、草を擱く。

- 四、村内の慈善興行を表彰し、且之を獎勵す。
- 五、本村出身者及本村關係者との聯絡を計り、且其發展向上を期す。
- 六、餘餘力を以て、國民善導に當る。

内郷村報

天法人則
ニ從順ナ
ルベシ

長壽一生樂

昭和十一年春自三居安田伊作



これは百三歳安田伊作翁が、國本神社祠側に於ける、記念植樹の光景であります。翁は大内家多年の出入で我亡母が與入の時に、其駕籠をかついてくれた人なのであります。（民恵）

勅題 池邊鶴

老松の影さす池におり立ちてたつや養ふ千代の齡を
池水に翼清めて葦たつ年のよこみやなきて捧くる
池水に鶴も千歳の影うけて萬代よはふ聲しきりなり
池の邊に翼ならへて友鶴の聲ましく鳴きわたる哉
ゆらきよる池の渚の小波に首傾けぬめのまなつる

東京 遠藤二郎
杉田 高橋直記
大内民恵

竹内實君を禮讚す

大内民恵

記者は、本紙昨年一月號に、教育制度改革問題について、「文部大臣は素人大工の棟梁なり」の一文を掲げて、今や彼が所謂「明鏡

禮讚文を草して、讀者諸賢に見ゆる事を、無上の欣快とするものである。

舊臘十一月一日、本縣下に於て、數人の小學校長諸君が、奏任待遇となつた事が發表され、其内に安達郡



校學小澤鹽と長校内竹たつなと遇待任奏

鹽澤尋常校長竹内實君を見出した時に、記者は思はず此ある哉と、快哉を三唱したのであつた。塩澤校？恐らく郡外の人々にはわからないと思ふ。二本松町の北方を距る一里、山間にある

本紙發行は大内一家の事業にして、其の社説は子孫に對する遺言を兼ねるものなり。

本紙定價 一年十元 半年五元 一月一元
發行所 大内民恵
印刷所 平活版所

たのは十時頃であつた。校長の風貌、校舎の光景は、こゝに掲載した寫眞の通りである。（最近の撮影）世の所謂奏待校長及其校舎なるものと比較して、異様の感を抱かないものがあるまいと思はれる。其部下としては、樽井一（在勤十三年六月）竹内モン（同十五年九月）遊佐紀夫（同六年九月）君島ヨシ（同上）高橋末治（昨年四月就任）の

謹賀新幸

昭和十一年一月一日

大内民恵
大内一
大内二
大内三
大内四
大内五
大内六
大内七
大内八
大内九
大内十
大内十一
大内十二
大内十三
大内十四
大内十五
大内十六
大内十七
大内十八
大内十九
大内二十

記者は先年、教育制度改革論を書いた時に、或人からわが教育主義を、現行制度下に實行して居る人があり、それが竹内君である事を聞かされ、しかも其が、我恩師竹内庄介先生（竹内東仙先生の分家）の令嗣であつた事を知るに及んで、直ちに同先生を訪問したるに、偶然にも其席に於て、竹内校長に會見するの好機を得たので、其内に參校して、其教育ぶりを見せて戴く事を約したのであつたが、爾來數年、念頭にかけつつも、其儘になつて居つたのであつた。

こゝに於て記者は、今度こそはと、萬障を繰り合せて出張、十一月二十日に山坂を越えて同村に到り、先づ役場で安部村長を始め、吏員諸氏に會見して、校長の事蹟を調べ、學校に着いたのは十時頃であつた。校長の風貌、校舎の光景は、こゝに掲載した寫眞の通りである。（最近の撮影）世の所謂奏待校長及其校舎なるものと比較して、異様の感を抱かないものがあるまいと思はれる。其部下としては、樽井一（在勤十三年六月）竹内モン（同十五年九月）遊佐紀夫（同六年九月）君島ヨシ（同上）高橋末治（昨年四月就任）の

五訓導で、先生の轉任といふ事を知らずに卒業した、かくて校長は、常に終學年を擔任して教育の仕上げをする事になつて居る。職員中竹内訓導は、校長夫人であるが故に、本校の卒業生は、全部校長夫妻の、手鹽にかげられたものである。禮讚する点を略述せんに、（以下二面へつゞく）

(第一面よりつゞく)
先づ第一に君は、禁酒禁煙
玄米主義者で、鹽澤小學
校乃至鹽澤村を、理想校理
想村にするといふ事を、己
の責任として念願として居
るが故に、卒業生の一生を
指導教育するは勿論、産業
副業風紀振興等に到る迄
肝膽を砕いて居るのである
されば他に如何なる榮轉の
口があつても、斷じて耳を
借さず、之を強いらるゝに
於ては、退職するといふ覺
悟で精勵して居るのである
君が一切萬事の主義方針は
此源泉より流れ出て居るの
である。青年訓練生五十六
人、男女青年團員百九十一
人、女子青年團員九十五人
で、村内居住の資格者は一
人も残らず、之を收容して
居るのである。卒業生中、
村外居住者の住所氏名は、
厚い小型の手帖に全部を記
入して、肌身を離さず、常
に音信を交はし、其全部の
行動を手に取るが如く暗ん
じて、それ／＼指導を怠ら
ない。されば旅行した時な
どには、其等教子等に出す
端書が數百枚に上るといふ
事である。我名を署名して
卒業証書を與へた、教子の
住所は勿論、氏名さへ、顔
さへ御存知ない、或は忘れ

て居る校長の多い現代にあ
つて、さりとては有り難い次
第である。而して特に記者
を感激せしめたのは、記者
が奏待を祝して上げた挨拶
状に
「當つて居ない」そう思つて居り
ます。然し一日の夕、丁度二本松
の家におり、夕刊を見て我事の如
く喜び給ふ老親、ここに新聞を手
にして佛前にゆかづき給ふ、母の
お姿を拜しては、すべてを忘れて
よかつたなき、心から喜ばました
云々

とあつた。何と美しい心境
ではあるまいか。又大きい
お嬢さん達は、御両親に預
けて、福島高女に通學させ
てあるとうであるが、其下
の尋四尋一の二人のお子さ
んは、手許で教育してはと
一里の險路を二本松校に通
學させて居らるゝこの事、
之亦常人の企及し得ざる處
である。強將の下に弱卒な
らば、部下の諸氏亦校長の
感化をうけ、之と一身同體
となつて、孜々として其任
務にあたつて居る。其日記
者は謂はるゝ儘に、全兒童
に一場の講話をしたのであ
るが、一見して其教授訓練
が徹底して居るに敬服させ
られたのであつた。校長以
下職員一同が、全村から神
の如くに、崇拜感謝されて
居るのも偶然でないといふ

なづかれたのであつた。
之を要するに、我竹内君
は、記者の年來唱道する、
教育制度改革案九主義中の
絶対繼續主義、責任分擔主
義、父母兩性共同主義、男
女共學主義を、完全に實行
して居るのである。記者の
理想は、全國の小學校を、
鹽澤校たらしめたいのであ
る。そうしなければ、教育
の徹底は到底期する事は出
來ないと思つて居るのであ
る。されど竹内君の如き、
眞の教育者を得る事は容易
でない。記者は先づ制度か
ら改革して、同君の如き教
育者を育成する方法を、待
遇する方針を講すべきであ
ると思ふのである。我文

部省の如く、記者の所謂教
育職工や難夫によつて、や
りくり的に制度の改革を行
ふ事なしに、我鹽澤校の如
きを標準として、其刷新を
企圖すべきものであると思
はれる。又師範の教生など
には、少くも一ヶ月位は、
鹽澤校鹽澤村を見學研究さ
せたいと思ふ。それにし
ても我縣當局が、山間の一
小小學校長を、特に拔んで
て奏待とした事は、絶讚に
値する。
尚竹内君が、村外に迄進
出して、社會教育方面にも
活躍して居る事蹟をも、紹
介したいと思ふが、餘白な
きを以て、之を割愛して擯
筆する事とした。

磐炭八分の配當を行ふ

磐城炭礦にては、九年度
後期の決算に於て、前期同
様八分の配當を行ひ、三百
余名の役員にはそれぞれ、
數ヶ月分のボーナス、四千
余名の従業員には、總花的
に其働きの應じて酒肴料を
給與した。かくて全山は、
近年稀に見る、賑やかな朝
な新年を迎へ、本年は更に
猪の如く、勇往邁進して、
十分の成績を擧げやうと、
同意氣込んで居る。

磐炭參拜遊覽團

磐炭従業員八十余名は、猪
狩武藤兩勤務擔任附添え、
此三十一日午後五時、綴驛を
出發して、今朝成田山宗吾
神社に參詣、東京に出て、
宮城靖國神社明治神宮等を
參拜、市内を見物して軍人
會館に宿泊、明二日早朝東
京出發、横須賀鎌倉を遊覽
して東京に引き返し、午後
七時三十分上野發、同十一
時四十分綴驛歸着の豫定
の由である。

災害防止祈願參拜

磐炭防災會では、従業員中
より十五名を代表者として
前記團體に參加せしめて災
害防止を祈願參拜せしめた
る由である。

通學道路改修決算

昨年五月田中宇一郎山崎辰
亥草野三千雄久野藤太郎木
田美文岡田寅雄鈴木銀次郎
の諸氏發起者となり、綴驛
宅より内町小學校に通ずる
約二丁の通學道路を改修す
るに、兒童の便宜を計つたの
であつたが、舊職其收支決
算を左の通り發表した。
収入金六拾六圓七十錢、内
三十六圓社親交會寄附、
三十圓七十二錢職工社寄
附、支出金五十四圓四十三
錢、内四十圓土盛工事費、
地代十四圓四十三錢、差引
殘金十二圓四十三錢、尚土
留工事及材料全部は磐炭に
て負擔(約七十圓)道路敷
地買收は村負擔(約六十圓)
にて、殘金は兒童教育後援
會に寄贈したる由。

◎本紙贊助金寄贈芳名

川平	井出	金次郎
小島	物見	貞次郎
小島	木口	實次郎
同	渡部	孝一
同	齋藤	留治
同	齋藤	平之
同	松本	留治
同	若松	利重
同	福尾	伊太郎
同	内郷	教育太郎
同	笠原	佐治
同	長尾	冬夫
同	會田	冬治
同	石田	政修
同	田	修二

日本評論社

發行所 日本評論社
東京市橋本三丁目
取次所 内郷村報社

教育制度改革概論

矢野 恒太序 大内民惠著
鹿野 宇吉
(四六版二二一頁 定價五十錢 郵稅六錢)

村内小學校増築竣工

内郷三萬村民が、多年纏
望して居つた、小學校増築
したる事。廊下全部を九尺巾と
事。打上げ天井とし

方面委員會

之助 新谷彦資 臨時監督
生田常弘 磐炭監督員 磐
炭建築係。(黒頭巾生報)

青訓聯合演習記

分會 聯合演習記
内郷分會副長大橋 貞勝

事である。我名を署名して卒業証書を與へた、教子の住所は勿論、氏名さへ、顔さへ御存知ない、或は忘れ

な新年を迎へ、本年は更に猪の如く、勇往邁進して十分の成績を挙げやうと、一同意氣込んで居る。

京出發 積須金銀を運んで七時三十分上野發、同十一時四十六分發歸着の豫定の由で。

金拾圓 熊本 内郷教育會
金參圓 神奈川 笠原冬治
金壹圓 同 郷 會田政修
金壹圓 同 郷 石田修二

失野 恒太 大内 民 惠 著
教育制度改革概論

（四六版）二一頁 定價五十錢 郵稅六錢

我が國教育學界の權威
前京大總長小西重直博士
書を寄せて曰く、多年ノ御體験ト實地ノ御試驗ニ基ク眞學藝國ノ大精神ヲ拜味ト未だ一人の抗議者も現はれず。

發行所 日本評論社
東京橋本三丁目
取次所 内郷村報社

村内小學校増築竣工

内郷三萬村民が、多年翹望して居つた、小學校増築問題も、村當局の熱心と、警炭の誠意とにより、圓滿なる協定成立、豫定通り高坂校四教室、内町校六教室宮校六教室を増築する事となり、其設計、建築、監督の一切を舉げて警炭に委託し、警炭では建築係員一同智囊を絞つて、斯界の粹を集めたるモダン設計をなし、信用厚き現消防組頭佐藤三平氏を指名請負とし、氏は之を光榮として、永久に残る記念事業なれば、名譽の爲にも、人に笑はれぬ仕事をしやうと、大きい腹を見せ、幾多の犠牲を拂ひ之に従ふ職人達も、學校といふ尊い、しかも親しみのある氣分で、揃ひの印絆纏で、甲斐々々しき奮闘をつ、け、工事開始以來實に五ヶ月、愈々十二月末日を以て竣工、来る一月六日正式に警炭より村に引渡す事となつた。其總建築費三萬五千貳百八拾七圓、外に土地買收費移轉費土工費等に約壹萬數千圓を要した。（何れも豫算）而して建築上特に留意した点をあげれば、基礎工事に最も意を注ぎ

方面委員會

其取扱事項

十二月二十六日午後一時より役場に開演。高原佐藤兩氏の外全員及金澤助役吉田書記出席、會費徵集件其他重要諸件を審議し、金澤助役よりは職業紹介所と聯絡四波部落視察についての報告あつて夕刻散會した。其十二月取扱事項左の如し。生活扶助、二四。保險救療指導、三三。戶籍整理、五九。其他、二。計一六〇。第一種世帯數三五、人口一七。第二種世帯數一〇七。人口五二二。第一種より第二種へ世帯數二、人口五。

助成會費徵集

既報の通り方面區域、十三區（高坂御臺境）及十三區（下綴御所小島）に於ては、十二月二十日迄に、支部委員、副支部長、支部分委員總動員の活動によつて、會費徵集を行つた、其成績左の通りである。第十二區（約二百戶）金五拾四圓拾九錢。第十三區（約二百戶）金六拾五圓貳拾五錢。

分會聯合演習記

内郷分會副長大橋 貞勝

過ぐる十六日午前八時より白水町方面に於て、内郷青年訓練と村分會の聯合演習を行つた。蓋しこの聯合演習たるや、内郷村に於て始めての企てである。この演習を實施するに當つて陸にひそむ功勞者あることを申上げればならぬ。それは我等が分會長杉山今朝吉氏である。氏は御承知の通り日露の勇士である。演習を以て演習ならしむる要件の一人の和を除けば、何んといつても資材であらう。この演習に購入する資材は、二、三千發。煙霧 一〇。山砲代用品 五十。この費用三百圓充實の手段として杉山會長自ら百圓也を寄附され、餘は多忙なる身に拘りず二週間を費して、或時は白水より宮に、あはれし山を汗だくくんで越され、有志家に叩頭されるの状を見しらす、感涙のこぼれを禁じ得なかつた。十六日は風さへなきて、めぐまれた演習日和であつた。先づ白水阿彌陀堂に集結す。参加人員九十九名。統 監 沼田少佐 佐藤主事 審判 加藤少尉 三箇小隊編成小隊長は川上、高橋、浦山各伍長中隊附大橋伍長午前九時沼田統監より想定を受領し、一同は軍神大越中佐の墓前に集結す。午前十時半坂方面に銃砲聲に聞ゆ。この敵を殲滅し支隊の堀坂山地進出を容易ならしむべき任務を有する杉山中隊は、川上小隊を突兵として前進す。

青年訓練樹立式

青年訓練樹立は、此度本村青年團副團長馬目太平治氏より寄贈され、たもので、本日合せて之が樹立式を行ふ。佐藤主事開會を宣し、沼田村長の訓示後、青年團分會長に授與され、藤田聯合分會長代理として佐藤主事の答辭、訓練生總代の宣誓ありて閉式す。宣誓午後三時半、八時間の困苦欲乏に堪ゆる猛訓練は、吾等の非常時打開のよき体験運動であつた。この演習をみらる、小國民、一般親衆數千、實戦に近き演習見學は、一入非常時の認識を深めたのであらう。今や理論の時代は過ぎて實行的秋、學村一致、國家總動員の立場から、非常時氣分を生活化したものであらう。

